

組織

会長	豊島 寿	(三輪小学校)
副会長	鈴木 陽	(雄勝小学校)
研究部長	池田 亜紀	(湯沢東小学校)
事業部長	斉藤 佳奈子	(東成瀬中学校)
幹事	池田 亜紀	(湯沢東小学校)
会計	高橋 香理	(湯沢南中学校)
事務局長	小原 真祈子	(稲川中学校)

主な事業

郡市教育研究会総会
研究テーマ、活動計画、今年度役員の確認
(湯沢北中学校 / 4月15日)

第70回秋田県児童生徒美術展
湯沢雄勝地区審査
(三関地区センター / 11月26日)

第69回東北造形教育大会秋田大会
第44回秋田県造形教育研究大会
南ブロック大会
大曲小学校、大曲中学校、大曲交流センター
/ 7月31～8月1日

第70回秋田県児童生徒美術展
作品展示と研修(審査)、撤去
秋田市文化創造センター
/ 1月7日～10日

研究会(事業)の記録

◎第65回秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地区審査

審査と共に研修を行い、今後の指導にどう生かすか考えたり、意見を出し合ってよりよい指導の在り方について考えを深めたりした。以下、審査講評からの抜粋である。

【低学年】クレヨンなどの画材や技法の良さがうまく生きていた。身近な生き物や野菜などから発想を広げた作品が多く見られ、体験が活かされている絵が多く、のびのびと表現活動を楽しむ様子が伝わってきた。

【中学年】色彩が鮮やかな作品や色使いが美しい作品が多く選出された。画用紙の色を工夫し、淡い色の透明感や背景との調和を表現したものや、写実的というよりスパッタリングや点描などの技法を取り入れたものなど独自の表現世界を作り上げた作品が印象的だった。

【高学年】自然物を使った立体作品が出品されており、作品のバリエーションが多かった。6年生では校内の風景を描いた作品が多かった。6年間を過ごした自分の学校に対する思いを複数の技法を組み合わせで表現していた。中学年の色鮮やかさとは代わり、水彩絵の具の良さを生かした淡い色合いの作品が多く見られた。

【中学校】平面作品ではどの作品も色の塗り方や水の調節、モダンテクニックなどの技法を取り入れた作品が多く見られた。立体作品では地域の伝統工芸に触れ、表現と鑑賞をつなげた作品があり、教育的意義の深い実践が話題となった。人体を扱う作品においては体の動きが感じられ動静が表現できていた。

◎第69回東北造形教育大会秋田大会兼第44回秋田県造形教育研究大会南ブロック大会

「みつめる めぐらす つくりだす」という大会テーマのもと、県南地区が大会運営役員として事前研修、前日の会場準備、二日間の運営補助をしながらそれぞれの会員が中学校の授業と小学校の授業の参観をすることができた。中学校の授業では、地域の良さをPRするデザインの授業でICTを活用した授業やカードゲームで地域の美術館の展覧会をプロデュースする鑑賞の授業など苦手意識を持っている生徒でも取り組みやすい新しい授業作りが提示されました。児童生徒の目を大切にした授業作りの大切さを感じる有意義な研究大会だった。